

明
之
強
之

之
之

明
*
淨
*
道
*
心
*
三

念
彌
皇
大
義
三

就
力
生
十
元
三
三

皇
統
二
十
六
百
五
十
五
年
元
旦

謹
言
賀

一日月曜

皇紀二千六百五年、元旦、北は南大
東島に迎ふ。詔、
聖君、高成、天皇、御祭、
奉り奉り、皇公、爾來、
多勝、祈、念、奉、
事、カ、昭、和、十九年、
皇孫、大河、廣、成、
下、御、祭、神、御、
心、身、奉、思、表、
感、激、三、
大東、五、
大東、五、
大東、五、

皇紀二千六百五年、
皇孫、大河、廣、成、
下、御、祭、神、御、
心、身、奉、思、表、
感、激、三、
大東、五、
大東、五、
大東、五、

一葉の葉にカニ

早且夫が身が海を多 神明の輝し
物論の奉誦 原口と共ニ
既し 運海の輝し
既し 運海の輝し
更ニ熱心ハ付マリ 旅路遙遠 武並ニ
訓話ヲ示シ 新教ハ 既實ノ 語ヲ受ク
毎半 齡ニキルヲ 故ス 人ニ 世道平ノニ
遠ニ 運ニ 既ニ 世ニ 何 命ニ タルヤラ 思フ
松陰先生ヲ 某 松先生ヲ 南 山先生ヲ

松平將軍の... 時 幾 昔人の 求ムル
所ハ 冥多 往時ニ 傳ルニ 老カラズ
何ゾ 奮起セザル 世ニ 敢テ カルニ
我 松平 公ニ 命ジテ 命ニ 地位ヲ 思ハ 責ニ 任セ
考メ
先ニ 徳 勇ヲ 揚ス 現場ニ 跪メ
統率力ニ 運ハ カナリ 驚ハセシ
カナリ
後 曾 指 導ノ 責ヲ 思ハ

奉命
賦しむる

卯之時、直道に心を一す、
賦、身は掃き、
承り、命、掃き、大君の
所、下には、
勢、軍を返して、彌、
敵の大君の、
逢、交、の、
思、身、
古、
意、の、
年、

恭、
好、
守、
地、
カ、

二日 火曜

平、
先、
内、
野、
其、
所、
即、

三日月 元始祭
早止 大神宮 詣り 旭日東天果
リテ 海系流リ
三日月 元始祭
早止 大神宮 詣り 旭日東天果
リテ 海系流リ

三日月 元始祭
早止 大神宮 詣り 旭日東天果
リテ 海系流リ
三日月 元始祭
早止 大神宮 詣り 旭日東天果
リテ 海系流リ

四日 木曜

小樽井中尉下沼の訓育ノ下、特校田ノ下
并々、午前十時、行幸、午任、別
去、エ、ク、作業、若、莫、模、テ、終、ル、
初、蘇、奉、讀、式、ヲ、奉、行、
社、中、樽、井、中、尉、ヲ、送、ル、タ、小、樽、ヲ、三、折、カ、
カ、モ、テ、南、ク、

孫、劉、道、隆、昔、日、少、能、及、ト、書、レ、
全、略

午前十時、行幸、午任、別
去、エ、ク、作業、若、莫、模、テ、終、ル、
初、蘇、奉、讀、式、ヲ、奉、行、
社、中、樽、井、中、尉、ヲ、送、ル、タ、小、樽、ヲ、三、折、カ、
カ、モ、テ、南、ク、

五日 土曜

昨日午後、後、有、馬、隊、長、ノ、演、説、
習、習、集、集、ノ、語、ヲ、
以、テ、告、ル、自、ラ、シ、ル、
處、小、樽、井、中、尉、ヲ、
本、校、並、現、行、設、備、ノ、復、素、
研、究、若、干、

六日

午後... 長女... 弟... 考... 合... 内... 二... エ... の... 指揮機関服務ニ就テ学科!

八日

午前... 午後... 天... 況... 合... 後... 思... 才...

九日

本日陸軍始ノ所儀ニ重荷前ニテ
最ニ執リ行ヒセリタリト。天佐カ将又
神助。戰雲此島ノ皇ニ暗キトキト
思ハ感涙又深シ。

火曜

情報書書類ニ眼ヲ通ス外務別
我ニキキ年モナクノ
将子ノ成長振リヲ報シ来ル。尙ニキ
有ナリ。久方振リニ小読并讀ム。
予所見刺教育ニ折見アリ。
軍隊ノ教育ハ技術ニ非ズ。根本クモ
軍人精神軍部ヲ志シテ教育アリシ。

十日

又教ルルモノ氣魄ト卒光健範トニ早
説ク

水曜

午前中煮飯午後在方防作業ヲ現ル
三少紙及モリ筋平有待世尉セリ種々
留守業務ニ就テ説ク後テ深更ニ及ブ
幹部候補生試験ヲ見考シテ教育ハ凡テ
余ヲ老大ニテ教ヘラレ
根本ニ置レ大東ニ置レ。折在甚場討キ
ノ現況西ノレハ折ニ連シ討兵的教育ハ
カクハ此ノ要ス。

十一日

木曜

十日

全曜

福地町下米隊ノ教アリ同炊成ニテ待テ
ニ大候不良ノ多カキテ来ラレテ
能行場多相請中尉等ヲ困ラテ置ル
松井第周下ノ感蒙来ニ結申テ何レ
教ラレ
至誠無範
復員村中尉等リテ認ル

研究演習ノ研究女衆

平田本田大尉来リテ少少の交電ニテ
ハ宜キヲ取ル 暇カキニ一時ナリ

大西義一中尉奇禍ニ逢ニ右腕ヲ
失フニ至ル 尊ニ同情ニ置ス

十日 土曜

福地町下送ニ来ラレテ本園長周下

更迭セシ後任ニ納見中尉トナリ

午前 旭軍手教習ヲ見午後 本隊

ニ対 故事我斗ニ就テ教習ス

禮曾糧中尉等リテ 隔更送 認ル

卓後 読刺ニ 創意

十日 日曜

午前 巡警指来 若干横察ニテ

午後 研光 夜 巡 兵少 隊 三 只 少 名

多ク 熱心

雨降ル

十五日 月曜

午前深谷中使殿指導由射火畧ノ
射事指揮見奉。地形其他、意異ニ
一揮十と雖、一指揮ヲ提ス
得也。
午後在多数隊演習。思々有。所尤カ使
一揮ニ対テ深谷精業トナル。右隊長ノ力
振リニ感謝ス。
社林林方時ヲ招キテ大尉以上將校回
真、会食ヲ行フ。

十六日 火曜

早朝村伏演習ヲ見テ、若干打合也

大西中尉還送サレ。母自ノ方キ、岸キノ
在。何時迄モ吾等カ眼感ヲ去ラズ
才多時大隊長集會。部所長ノ宿舎
ニ在テ人々ニ講了。後、御満腹下
御業終リ後、手乾魚、部所長ニ上
ス。右振リニ世和ヤカナル一呼。余カ道志ノ
至ラサキヲ齋魚ニ反者セシメラル。
断リテ断ラカカ交。斯クナカレバカラ文
際ヲ期ス。曰ク君子射事変スト。改カレ
ニ傳ル所ナシ。毎ヤトナ。
花存少他、思賜、文章、格致田、
強業ヲ殺ス。後書、善意ヲ思フ。

七日

水曜

吉田少将の深更迄信

事多し午後討伐中

組織性あり

乃方隊の中西中尉伊多片村物与等

系を

又昨日の素信 師心中一憂面自

通うの事余、不首多反省也

八日

水曜

休養日

午前及後午若万系 宿や

午後追撃砲試射の見学

十日

水曜

終日制法有野

信急

夜、終真世

大成

十一日

土曜

午前

午後狙撃隊教育 終了 付査問

命中率一般良好 技術相尋

イリテ教官以下、地獄

但し未だ教習基礎 確立

去矣 今後、努力 期待

壬辰 日曜

午前、社伏線作業。常規。人々、雨し
打石也?)
午後、高倉倉庫へ行。軽備者、前庭、
後庭、乾草入。
社月常々、数分。社中、社中、及同期生
集。社中、社中、雨。談、等、人

壬辰 日曜

休養。軽備者、見送り、三回、終日
節制し、清也。平、可、吹、見、送、心、快、連、
息、久、多、レ、テ、新、リ、キ、止、マ、ス、人
社、後、方、面、来、来、装、装、増、増、(、)

午前、長交、来リテ、日中、賑ヤカチ
午後、長交、来リテ、日中、賑ヤカチ
午後、長交、来リテ、日中、賑ヤカチ
午後、長交、来リテ、日中、賑ヤカチ

壬辰 日曜

午前、高倉倉庫、研究
午後、高倉倉庫、研究
午後、高倉倉庫、研究
午後、高倉倉庫、研究

壬辰 日曜

陸海、研究、研究、午後、吉田、少、少、少、少